

○ 本校の概要

児童数265、学級数11、教員数22名、今年度開校119周年を迎える地域に密着した学校である。通年、地元の祭りや伝統的な行事への参加をはじめ、干潟観察や量の授業など、地域の方々と学校が一体となって子どもたちの健全育成に取り組んでいる。また、羽田空港に最も近い学校であり、総合的な学習の時間を利用したバリアフリーの学習やキャリア教育、空港イベントへの参加等、空港と日常的に連携を図り、学校教育に生かしている。また、東京都人権尊重教育推進校としての歴史は長く、近隣の高齢者団体や幼・保育園、障害者施設や食肉市場の方々と交流を通して、都の人権課題について積極的に学習に取り組んでいる。このように、本校は「地域力と国際都市おおた」の実践に意欲的に取り組み、「人権尊重教育」に力を注いでいる学校である。

また、学力向上においては、放課後補習教室や土曜補習教室（羽田っ子塾）などを利用し、日頃の学習の成果や学習効果測定などの結果を基に、全教員が力を合わせて指導しに当たっている。漢字検定では全ての児童が合格するまで指導し、学力効果測定の結果にもその成果が見られるようになってきている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	学校関係者記入欄	
					評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	A	6
			3:80%以上が回答した。			
			2:60%以上が回答した。			
			1:60%未満であった。			
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。	1		
			3:80%以上の教員が行った。			
			2:60%以上の教員が行った。			
			1:60%未満であった。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。	4	B	1
			3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。			
			2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。			
			1:60%未満であった。			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	4	C	0
			3:80%以上で行った。			
			2:60%以上で行った。			
			1:60%未満であった。			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。	4		
			3:80%以上の教員で行った。			
			2:60%以上の教員で行った。			
			1:60%未満であった。			
		授業の中で、児童が自分の思いや考えをもつことができ、表現できる場をつくる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	D	0
			3:80%以上の教員で行った。			
			2:60%以上の教員で行った。			
			1:60%未満であった。			
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	4	A	3
			3:80%以上で行った。			
			2:60%以上で行った。			
			1:60%未満であった。			
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。	4	B	4
			3:学期毎に知らせた。			
			2:年度間に1回は知らせた。			
			1:お知らせできなかった。			
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。	4		
			3:80%以上の教員が働きかけた。			
			2:60%以上の教員が働きかけた。			
			1:60%以下の教員が働きかけた。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	C	0
			3:80%以上が回答した。			
			2:60%以上が回答した。			
			1:60%未満であった。			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。	4	A	5
			3:80%以上の教員が行った。			
			2:60%以上の教員が行った。			
			1:60%未満であった。			
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。	4	B	2
			3:学期に1回(年間3回)以上行った。			
			2:年度間に1回以上行った。			
			1:実施しなかった。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。	4		
			3:80%以上の教員が回答した。			
			2:60%以上の教員が回答した。			
			1:60%未満であった。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。	4	C	0
			3:80%以上の教員が回答した。			
			2:60%以上の教員が回答した。			
			1:60%未満であった。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。	4		
			3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。			
			2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。			
			1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。			
		児童が自主的に、実践的に取り組める活動(学級活動、係活動、児童会活動等)の場を作り、その成果を的確に評価している。	4:全教員で行った。	4	D	0
			3:80%以上の教員で行った。			
			2:60%以上の教員で行った。			
			1:60%未満であった。			
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。	4	A	5
			3:80%以上の教員で行った。			
			2:60%以上の教員で行った。			
			1:60%未満であった。			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。	3	B	2
			3:80%以上の教員で行った。			
			2:60%以上の教員で行った。			
			1:60%未満であった。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。	4	C	0
			3:80%以上の教員で行った。			
			2:60%以上の教員で行った。			
			1:60%未満であった。			
		体育の授業や外遊びを通して、体力向上や運動能力の向上を図る運動の取り組みを継続的に推進する。	4:全教員で行った。	4	D	0
			3:80%以上の教員で行った。			
			2:60%以上の教員で行った。			
			1:60%未満であった。			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	A	5
			3:80%以上の教員が回答した。			
			2:60%以上の教員が回答した。			
			1:60%未満であった。			
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。	4	B	2
			3:学期に1回(年間3回)以上行った。			
			2:年度間に1回以上行った。			
			1:実施しなかった。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4		
			3:80%以上の教員が回答した。			
			2:60%以上の教員が回答した。			
			1:60%未満であった。			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。	4	C	0
			3:学期に2～3回行った。			
			2:学期1回以上行った。			
			1:実施しなかった。			
		自身の課題を明確にして公開授業や自己申告改善授業に取り組み、授業改善を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	D	0
			3:80%以上の教員が回答した。			
			2:60%以上の教員が回答した。			
			1:60%未満であった。			
プラン6 なつて学校も、家庭も、地域も、一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。	4	A	6
			3:学期に2～3回更新した。			
			2:学期1回以上更新した。			
			1:更新しなかった。			
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。	4	B	1
			3:おおむね情報を提供した。			
			2:あまり情報を提供しなかった。			
			1:情報を提供しなかった。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。	4		
			3:学期1回以上行った。			
			2:年1回以上行った。			
			1:実施しなかった。			
		児童の「わかる」「できる」につながる家庭学習を定期的に出し、習慣化を図る。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	C	0
			3:80%以上の教員が回答した。			
			2:60%以上の教員が回答した。			
			1:60%未満であった。			
		自ら挨拶しようとする児童の意識を高める取り組みをして、自分から進んで挨拶する児童を増やす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	D	0
			3:80%以上の教員が回答した。			
			2:60%以上の教員が回答した。			
			1:60%未満であった。			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価